

げんじのてんじ


— みんな源氏物語 展 —

千年以上の時を経て、今なお読み継がれる『源氏物語』。
特に今年はNHK大河ドラマで紫式部の生涯が描かれており、改めて『源氏物語』や中古文学、平安文化などへの興味を掻き立てられている方も多いのではないのでしょうか。

総合図書館にも『源氏物語』と、その関連資料が多く所蔵されています。例えば『源氏物語』だけでも写本と版本それぞれがあり、書写・刊行年も様々です。また『源氏物語』の絵巻物や多くの情報が付加された注釈書、ダイジェスト版に翻案小説、外国語に訳された本、そしてこれまで幾人もの人が取り組んできた現代語訳本など、挙げだせば枚挙にいとまがありません。
今回はそれらの中から、様々な視点で『源氏物語』を見ることができる資料を展示します。


ここで紹介する資料は、みんな『源氏物語』に関連する資料です。
その作者や編者はみんな、『源氏物語』に深い想いを抱いているとも言えます。
そんな多くの人の心を捉えて離さない『源氏物語』を資料からお楽しみください。

 日時：2024年3月27日（水）～7月下旬（予定）

 場所：総合図書館 1階 展示スペース

 開室時間：総合図書館（本館）と同じ



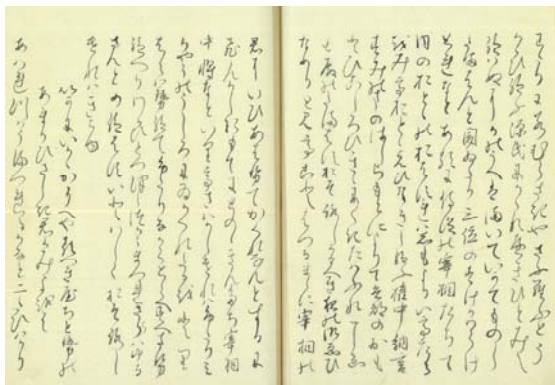
 総合図書館ウェブサイトでも展示資料を紹介しています
<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/general/event/20240326>



主な展示資料

『源氏物語』に関する様々な資料を展示します

『紫式部日記』



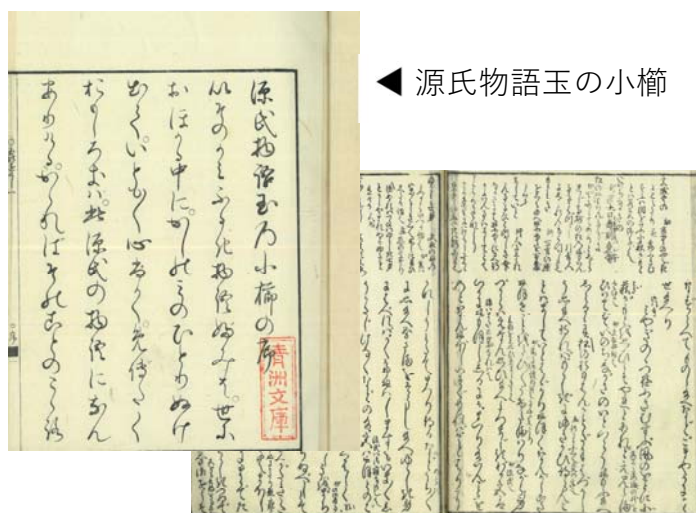
1008（寛弘5）年から1010（寛弘7）年までのことが綴られた、紫式部による日記です。

『紫式部日記』をもとに作成された絵巻物の『紫式部日記絵詞』（むらさきしきぶにつきえことば）もあわせて展示します。

本居宣長『源氏物語玉の小櫛』

本居宣長（1730-1801）による『源氏物語』の注釈書です。この他、江戸時代を通して最も流布した注釈書『湖月抄』も展示します。

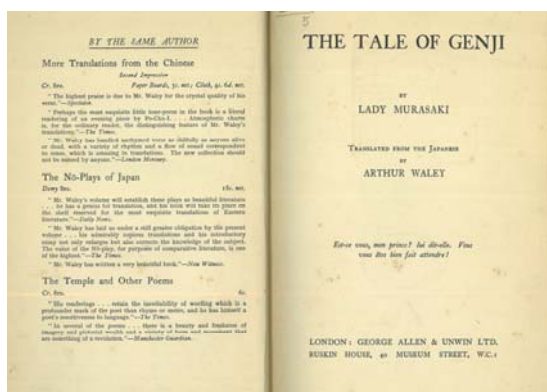
また、日常語で書かれた『俗解げんじものがたり』や翻案小説『修紫田舎源氏』（にせむらさきいなかげんじ）なども展示します。



◀ 源氏物語玉の小櫛

The tale of Genji by Arthur Waley

（アーサー・ウェイリー版『源氏物語』）



▲ 湖月抄

アーサー・ウェイリー（1889-1966）による英訳本をはじめ、いくつかの外国語版『源氏物語』を展示します。

また、与謝野晶子や円地文子、角田光代など様々な現代語訳についての情報も紹介します。

本展示会開催にあたっては、本学大学院総合文化研究科の田村隆准教授に様々なご助言をいただきました。

【参考図書】

田村隆編・解説『源氏愛憎：源氏物語論アンソロジー』（角川ソフィア文庫；C124-1）
KADOKAWA, 2023年11月刊

イラスト画像
『源氏物語』（E23:198）を改変

本展示に関するお問合せ
tenjiwg_event-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

